

水環境共働ビジョン

地域が支える流域の水循環

皆さんの周りでも「水」との触れ合いの輪を広めませんか！



「地域の水環境への取りくみが大きな流域の水循環を支える」という考え方のもと、次世代へ良好な水環境を受け継ぐために、「**水環境共働ビジョン ～地域が支える流域の水循環～**」を策定しました。

1. ビジョンからの呼びかけ

「人がふれあい 生き物をはぐくむ 豊かで清らかな水辺の継承」



水環境共働ビジョン(表紙)

2. ビジョンが描く将来像と視点

市民の毎日の生活や社会活動を、衛生的かつ安全な環境下で営むとともに、ふれあえる水辺や生物多様性をもたらす良好な水環境を保全・再生します。



ビジョンの4つの視点

3. 共働の「輪」づくり、実践開始

取りくみを進めるにあたり、既に水に関わる活動が活発に行われている地区をモデル地区とし、試行的に以下の取りくみを行いました。(本地新田地区、西中山地区、高橋・上野・東山地区、西広瀬地区)

1. 川を想う座談会

地区の特徴的な取りくみの紹介と、水に対する思い(良いこと、悪いこと、要望等)を付箋に書き、地図に貼るミニワークを通じて、意見交換を行いました。



座談会の様子

2. 川しらべ

環境保全課と連携して、簡単な実験キットを使った水質調査を実施しました。「透視度」「川底の感触」「溶存酸素」「生き物の生息状況」「川への近づきやすさ」など11項目の調査を行いました。



川しらべの様子

3. モデル地区交流会

交流会では、各自治体の取りくみやワークショップ内容を紹介し、各河川の特徴や取りくみに関する意見、質問、アドバイス等について情報交換を行いました。



交流会の様子

4. 振り返りと展望

本年度の取りくみの振り返りと、来年度以降の取りくみについて検討するワークショップを実施し、カレンダー作成しました。そして4地区それぞれの発表を行いました。



発表の様子

モデル地区① 逢妻女川上流域（本地新田地区）

逢妻女川は、豊田市南部の田園地帯を流れる二級河川です。上流域は水田の面積が約3割を占め、流域内に多くのため池を有する農業地帯ですが、中心市街地に近いため住宅地が増加し、人口も増え続けています。最近では、下水道整備により水質が徐々に改善していますが、晴天時の河川流量は減少傾向にあり、きれいで豊かな水の流れを回復させていく取り組みが求められています。

逢妻女川上流域のうち、本地新田自治会の協力とともに取り組みました。



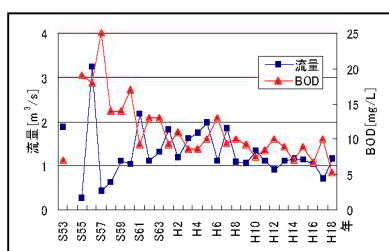
位置図



流域のため池（米田池）の様子



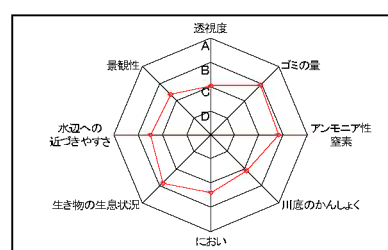
逢妻女川上流域では「逢妻女川クリーン活動」（参加人数 3,000 人程度）が年 1 回実施されています



河川の流量・水質



川しらべの様子



川しらべの結果

モデル地区② 御船川流域（西中山地区）

御船川は、藤岡地区南部から猿投地区東部にかけて流れる河川で、流域の面積の半分以上を森林が占めています。当流域では、昭和 50 年代以降、藤岡地区での宅地開発が進み、人口が急増したことで生活排水による水質汚濁が進行しました。特に上流域である西中山地区においては下水道事業に着手したばかりで生活排水処理がススデおらず、対策が急務となっています。

御船川の上流域にあたる西中山川流域において、西中山自治会の協力とともに取り組みました。



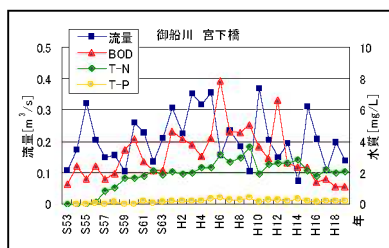
位置図



大池周辺の様子



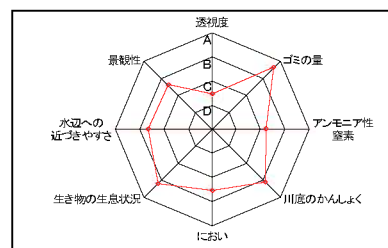
河川浄化活動(水質浄化活動や水質調査)、大池周辺整備・河川愛護活動などを行っています。



河川の流量・水質



川しらべの様子



川しらべの結果

モデル地区③ 加茂川流域（高橋・上野・東山地区）

加茂川は、高橋地区の住宅地を流れています。当流域では昭和 50 年代以降、宅地化の進展により人口が著しく増加し、河川水質も悪化しましたが、下水道整備とともに水質は大きく改善しました。また、中流部では川に近づきやすい護岸形態となっており、現在は水辺に近づき、ふれあえる河川として地域住民に親しまれています。

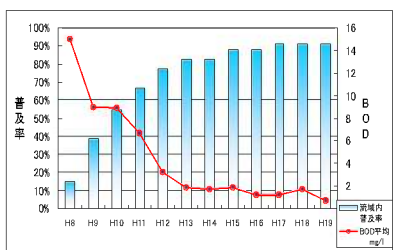
加茂川流域のうち、東山町・上野・高橋自治区周辺において河川愛護活動をしている 2 団体と協力して取りくみました。



位置図



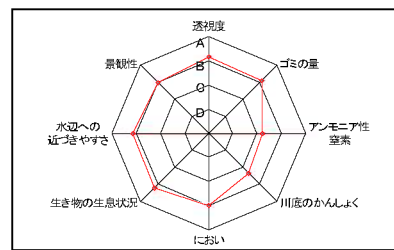
自治区の環境美化活動や「加茂川を美しくする会」と「加茂川水辺愛護会」による日常的な河川の草刈りなどの維持管理を行っています。



下水道の進捗とともに水質改善



川しらべの様子



川しらべの結果

モデル地区④ 飯野川流域（西広瀬地区）

飯野川は、藤岡地区北西部の山間部から藤岡支所脇を流れ、西広瀬町で矢作川に注ぎます。流域面積の約 8 割を森林が占めるため、水量も豊富で、水質も非常に良好です。しかし、昭和 60 年代以降、上流域の藤岡地区で宅地開発が進み人口が増加しており、下流域の住民からは水質の変化を指摘する声が上がっています。

下流部の西広瀬自治区をモデル地区とし、当地区を拠点に活動している水辺愛護団体とともに取りくみました。

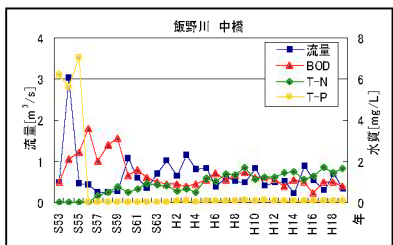


位置図



西広瀬小学校児童による水質調査が 30 年以上毎日行われて、地域住民もサポートしています。

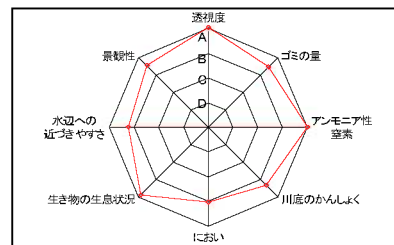
愛護会による草刈活動の様子。



河川の流量・水質



川しらべの様子



川しらべの結果

[illegible]

5. みなさんも輪に加わりませんか！

毎年度、行政と地域の取り組みの状況を互いに確認し、情報交換や意見交換をしながら、平成 25 年度に取り組みの広がりや取り組み効果を確認していきます。

少しずつでも取り組みの輪（ネットワーク）が広がることが本ビジョンの趣旨ですので、「川しらべ」や交流会等に参加の意向をお持ちの自治体は、担当課へご相談ください。

